

肺がんの診断について

今回は呼吸器内科で呼吸器専門医の加藤高英医師に「肺がんの診断」について伺いました。



▲加藤 高英 医師

こんにちは。呼吸器内科の加藤です。今回は、日本人の死因第1位である「がん」の中でも、男女ともに上位の怖い病気である「肺がん」の診断について御紹介します。

ことを指摘されるところから肺がん診療は始まります。肺がん以外にも病気がたくさんありますので、その病変が何なのか、細胞・組織を取って調べる必要があります（病理診断）。私たち呼吸器内科が担当するのは「気管支内視鏡検査」です。咳や息苦しさなどの苦痛を伴う検査ですが、近年は鎮静剤の併用により安全・安楽に行えるようになっております。また当院では今年度より超音波気管支鏡装置を導入し、より診断率の高い検査ができるようになりました。

もう一つ重要なのが、がんの拡がりを調べること（病期診断）です。病期（ステージ）によって受けられる治療内容が大きく変わるためです。病期診断には「PET-CT検査」が非常に有用ですが、小さな病変の検出は難しく、また重度の糖尿病があると正確な検査ができない等の苦手分野もあるため、MRIなど他の検査と組み合わせで行います。診断が確定したら、個々の患者様にあわせた治療方針を検討していきます。

以上、肺がんの診断について概説しました。気

になる方は、ぜひ一度受診してみてください。
また、早期発見・治療に繋がるよう、定期的な検診受診もぜひお願いします。

社会福祉法人



恩賜財団

済生会今治病院

今治市喜田村7丁目1番6号

<https://www.imabari.saiseikai.or.jp/>

☎0898-47-2500

